

大会2日目：9月29日（日曜日）

会場：白鷹館講義室

シンポジウム「マリンスポーツと教育」

サーフィンと教育～笑顔と自然の生涯学習～

池谷真一（日本サーフアカデミー高等部 事務局長）

キーワード：サーフィン、人間形成、教育、自然の力、体得

【はじめに】

「サーフィン」を通して自然と対峙することは、自然の中での自己の存在、強さ弱さを知ることができ、波へのチャレンジは、心身共に潮水に洗われ、心身共に健全となる。

【サーフィンの社会的印象】

サーフィンが日本に入ってきて半世紀、既に2世代3世代にわたって、このスポーツを楽しんでいる人も増えてきている。しかしながら、社会的に悪いイメージが刷り込まれてきたところもある。実際のサーフィンは、夏のイメージや華やかさとは異なり、日々努力が必要なスポーツである。波に乗る為には波の向こう側に行かなくてはならず、そこにはリフトなど動力の付いた便利なものはない。波を越えるには、強い精神力と体力が必要である。社会的印象とは大きなギャップを持っているスポーツである。

【日本サーフアカデミー高等部】

サーフィンは、海という自然のフィールドで行うスポーツなので、どうしても自然のサイクルに時間・生活を合わせる必要がある。ここが他のスポーツとの一番の違いである。他のスポーツならば放課後に練習する事で学校での授業と両立させることも可能だが、サーフィンの場合は、ここが難しい。サーフィンをするのに必要な条件は、波（うねり）・風・潮の干満・諸条件で起きる海底地形など多数存在する。そうなると通常のカリキュラムの学校では無理である。しかしサーフィンから学ぶことは多く、サーフィンの良さを知る私達大人が汗をかいて子ども達の教育に役立たねばならないという思いから、本校、日本サーフアカデミー高等部：通信制高校サポート校を開校した。自然（波）を敬いサーフィンというスポーツを通して子どもたちの人間形成の役に立てることが理念である。自然（波）へのチャレンジは、達成した時の喜びを感じるとともに、自然の強さを体感し、また、「環境の変化」を感じることで「自然の大切さ」知ることができる。

知る＝知識を得る、体感＝経験、で技術を身につける、すなわち体得する。人間教育の基本を学習することで、自然を知ること、人の生き方を考えるようになり生きる力

が醸成される。

「調和する」心を持つことで、自分だけではなく、他人を考えることのできる人間へと成長することができる。スポーツという枠組みを超えた要素をたくさん持っている「サーフィン」を通して、私たちは子どもたちの夢、人生を応援し、支えている。

昨日まで知らなかったことを知り、出来なかったことを出来るようなヒントを与え、成長し生きていくための基礎作りができれば「笑顔と自然の生涯学習」は達成できていくものと考えます。

【人間形成、教育効果など】

我校の校則は、「人に迷惑をかけない、自分の事は自分でする」である。生徒は、身体は大人でも、心は子どもである。未熟な子ども達には、日々いろいろな事があるが、人に優しく譲り合いを忘れないよう接している。また社会奉仕としてビーチクリーン（海岸清掃）、ハンディキャップ者の支援などを行ない人間性の向上に努めている。何より、サーフィンが出来なかった子ども達が、出来るようになった時の笑顔。波に打ちのめされてショボく「先生、波の向こう側に僕を連れて行って」などと甘えていた子が、いつしか勇ましい姿で大きな波に乗った時、先生方の喜び・感動は子ども達のそれを上回るものである。

サーフィンは年齢性別関係なく生涯楽しみ勉強となるスポーツである。成長し生きる力の育成の基礎となれば「笑顔と自然の生涯学習」は達成できる。

サーフィンは人生を変えるスポーツである。

我校は、まだ開校したばかり。皆様方のお知恵お力をお借りして、より多くの子ども達の未来を生きてく力を育成できれば、そしてサーフィンを通して社会に貢献できればと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

【演者略歴】

国士舘大学卒業、全日本サーフィン選手権メンズ優勝、元JPSAプロサーファー、ISAレベル2コーチ
NPO法人海のネットワーク理事長、